

# 囲碁の聖戦

おおさわ かんじ  
大澤完治さん ②

岡目八目



今年の棋聖戦は、はからずも第2局(埼玉真川越市)と第4局(福岡県太宰府市)に立ち会う機会に恵まれました。川越での棋聖戦は3回目、浄土宗の古刹「蓮馨寺」で行われました。

川越市は8年前に市制90周年を迎え、町おこしとして囲碁と観光をジョイント。百面打ち、こども囲碁教室など様々なイベントを推進してきました。今回の川越対局は同市観光協会会長でもある蓮馨寺住職のご厚意によるものでした。対局場は本堂のご本尊・阿弥陀如来像の面前。しかも御簾1枚を隔てた真正面での対局となりました。2日目の朝、私は対局開始を盤側で観戦しました。その際、ご本尊の阿弥陀如来はどごい驚いたかと思

## 感慨深い、九博での棋聖戦

い、後で住職に伺うと、「至心信樂」という阿弥陀様が大好きな言葉がある。真心をもって仏を信じ、願ひ求めれば、極楽浄土への往生は必定。対局者の真剣な姿勢はまさにこれに通じ、ご本尊はご満悦だったと思う」とのことでした。

第4局は史上初の国立博物館での対局となりました。囲碁好きの九州国立博物館・島谷弘幸館長の英断で開催の運びとなったものです。私の次男・信が勤務していること、また次女・摩耶が石田芳夫先生の大盤解説会で聞き手を務めさせていたことなど、私にとっても思い出深い棋聖戦となりました。

九博は大宰府天満宮に隣接し、2005年に開館した博物館です。芸術文化遺産の宝庫である博物館と、4000年以上の歴史や英知を包含する囲碁とのコラボレーションは、今後のタイトル戦開催のあり方に一つの方向性を示したといえるのではないのでしょうか。

(緑星さいたま代表)

ICGO